

相対補充連体修飾節のテンス小考

橋本 修

キーワード：従属節のテンス、相対補充連体修飾節、叙実性、ダイクシス時詞

要 旨

本稿では、「準備」「効果」等にかかる、相対補充連体修飾節のテンスの振る舞いについて、「まえ」節・「あと」節のような時間関係（そのもの）をあらわす従属節とを比較し、異同を検討した。検討の結果、両者には、テンス形式（ル／タ形）の選択に関して制約を持ち、その制約の緩和条件にも類似したところがあるという共通点を持つ一方、叙実性に関する制約、可能なダイクシス時詞の出現条件に異なりがあることが分かった。「準備」「効果」等にかかる連体修飾節における叙実性に関する制約、可能なダイクシス時詞の出現条件（に関する制約）は、他の「外の関係の連体修飾節」における制約と共通のものと目されるので、「まえ」節・「あと」節のほうが、連体修飾節としては特殊であるということになる。

1. はじめに

先行研究の多くが指摘するように、「まえ」「あと」に導かれる節のテンスは、通常の場合には、「まえ」であればル形（非タ形）、「あと」であればタ形に固定されるという制約がかかり、そうでない形の許容度は下がる。

- (01) [太郎に会う] まえに、花子に会った。
- (02) ?? [太郎に会った] まえに、花子に会った。
- (03) [書類で申し込んだ] あとに、電話をかけて確認をする。
- (04) ?? [書類で申し込む] あとに、電話をかけて確認をする。

このような、被修飾名詞の性質によって修飾節のテンス形式が制約される現象は、「まえ」「あと」のような時間関係そのものをあらわす名詞句以外にも存在する。例えば、「準備」「効果」などの名詞が、相対補充の連体修飾節を受ける場合がそれに当たる。

- (05) [3月3日に本大会を開催する] 準備を、1月に始めた。
- (06) ?? [3月3日に本大会を開催した] 準備を、1月に始めた。
- (07) [非難決議を提案した] 影響が、徐々に出てくるだろう。
- (08) ?? [非難決議を提案する] 影響が、徐々に出てくるだろう。

上記 (01) ~ (04)、(05) ~ (08) のみを比較した場合、修飾節のテンス選択に関しては名詞「まえ」「あと」と、「準備」「影響」とは全く同じ類に属するように見える。

(01) ~ (04) のような「まえ」「あと」節 (*1) は「時 (トキ) の従属節 (副詞節)」のような名称のカテゴリーに所属させられることが多いが、「まえ」「あと」はかなりの程度名詞としての性質を備えており、「準備」「影響」等の、相対補充連体修飾を受ける名詞として (のみ) 扱うことも、可能性としてはありうる。「まえ」「あと」類と「準備」「影響」類とが同じ類に属し、区別する必要がないということになれば、「時の従属節」の定義を再検討する必要があることになる (もともと先行研究において「時の従属節」「トキをあらわす節」「時間の従属複文」等と呼ばれるものについて、明確な定義が与えられていない傾向も強い)。極端な場合を考えれば、時の従属節というカテゴリーは不要で、従来時の従属節と言われているもののほとんどが、連体修飾節 (+主名詞+助詞) の一つにすぎないものとして位置づけられる可能性まであり得る。本稿は、時の従属節が (ふつうの) 連体修飾節とどのような関係にあるのかを探る一環として、「まえ」「あと」のタイプと「準備」「影響」のタイプとの共通点と相違点について検討する。

2. 「まえ」「あと」と、「準備」「影響」の共通点

2-1

両者の共通点については、1. で見た制約の存在が最も主要なものである。

<再掲>

- (01) [太郎に会う] まえに、花子に会った。
- (02) ?? [太郎に会った] まえに、花子に会った。
- (03) [書類で申し込んだ] あとに、電話をかけて確認をする。
- (04) ?? [書類で申し込む] あとに、電話をかけて確認をする。

(05) [3月3日に本大会を開催する]準備を、1月に始めた。

(06) ?? [3月3日に本大会を開催した]準備を、1月に始めた。

(07) [非難決議を提案した]影響が、徐々に出てくるだろう。

(08) ?? [非難決議を提案する]影響が、徐々に出てくるだろう。

注意すべきは、許容度の低い例文は、「事実関係として当該のテンス形式（ル／タ形）があり得ないから自動的に不自然になるのだ」とは言えないという点である。例えば(01)において、[太郎に会う]という出来事は、主節時（*2）から見れば以降（未来）であるが、発話時から見れば以前（過去）であり、従属節内にタ形の成立する可能性はあるはずである。実際すぐに後述するように、(01)のような「まえ」を含む文でも、下の(09)のように連体修飾節と「まえ」とのあいだになんらかの要素が介在すれば、タ形が許容される（場合がある）。

(09) [太郎に会った] その3日まえに、花子に会った。

また、普通の、内の関係の連体修飾節においては、事実関係や文脈において発話時・主節時どちらの時点から見ても適正であれば、ル形・タ形いずれも許容される。

(10) [明日買う／買った]服を、あさってのパーティーに着てゆく。

ル形：（節の出来事が）発話時から見て以降

タ形：（節の出来事が）主節時から見て以前

以上から分かるのは、(01)～(08)においては、ル形・タ形の出現が、一定の範囲で連体修飾節の通常の状態よりも狭く制約され、それは、被修飾名詞の性質に起因するものである、ということである。繰り返しになるが、その意味で、「まえ」「あと」類と「準備」「影響」類とは（名詞として）一定の性質を共有しているということになる。

2-2

竹沢 1993 他で指摘されるように、修飾節と「まえ」「あと」とのあいだになんらかの要素が介在すると、制約に抵触する方のテンス形式の許容度が上がる（すでに2-1で若干触れた）。

(11) (?) [先週太郎に会った]一週間まえに、花子に会った。

- (12) [先週太郎に会った] そのまえに、花子に会った。
(13) [先週太郎に会った] その一週間まえに、花子に会った。
(14) (?) [あした書類で申し込む] 3日あとに、電話をかけて確認をする。
(15) [あした書類で申し込む] そのあとに、電話をかけて確認をする。
(16) [あした書類で申し込む] その3日あとに、電話をかけて確認をする。

修飾節と被修飾名詞とのあいだに介在する要素が多い方が、より完全な許容度が得られるようである。一方、「準備」「影響」についても、修飾節と被修飾名詞とのあいだに要素が介在すると許容度が上がる場合がある。

- (17) ?? [3月3日に本大会を開催した] 本格的な準備を、1月に始めた。
(18) ? [3月3日に本大会を開催した] その準備を、1月に始めた。
(19) [3月3日に本大会を開催した] その本格的な準備を、1月に始めた。
(20) ?? [あした非難決議を提案する] 間接的な影響が、徐々に出てくるだろう。
(21) (?) [あした非難決議を提案する] その影響が、徐々に出てくるだろう。
(22) [あした非難決議を提案する] その間接的な影響が、徐々に出てくるだろう。

大まかに見れば、修飾節と被修飾名詞とのあいだになんらかの要素が介在すると、通常許されないテンス形式の許容度が上がる、という点で、「まえ」「あと」と「準備」「影響」は共通する。ただし、その許容度の上がり具合は同じでなく、やや「準備」「影響」のタイプの方が、上がりにくい可能性がある。

3. 「まえ」「あと」と、「準備」「影響」の相違点

3-1 叙実性に関する制約の有無（強弱）

ある種の従属節においては、主節時基準の解釈に関し、事実関係においては問題がないにもかかわらず、完全な許容度が得られない場合がある。

- (23) ? 太郎は、[来年引退した] ことを、海外の関係者に対してはしばらく隠すだろう。

(24) ? [明日発表を終えた] 山田さんは、あさってバスで帰るそうだ。

(* 3)

(23) は外の関係の連体修飾節、(24) は（内の関係の）非制限節であるが、いずれも、事実関係においては問題がないにもかかわらず、夕形において完全な許容度が得られていない例文である。これらの夕形従属節の許容度が十分でない原因は、おおまかに言えば、「事実であることが確定していない（発話時から見て未来の）ことがらを、無条件で事実であるかのように表現してはならない」という、広義の叙実性に関する制約に対する抵触であると思われる。夕形の従属節がどのような場合に事実であるかのように表現してしまうのか等についての詳細は今後別に考えたいが、少なくとも上記のような場合には夕形が、従属節のことがらがすでに事実であるかのように表現していることが、許容度を下げている要因のようである。

このような、叙実性に関する制約は主に主節時基準において夕形をとる名詞の連体修飾節にはたらくが、この条件を満たす「影響」（を修飾する連体修飾節）においても、この制約ははたらいっているようである。

(25) ? [彼らがあした非難決議を提案した] 影響が、徐々に出てくるだろう。

(26) ?? [あの国が来年牛肉の輸入を再開した] 影響は、どれぐらいになるだろうか。

(27) ? あの会社は [来年法人税が上がった] 影響をもろに受けるだろう。

例文によって許容度の低さにはゆれがあるが、全体として、名詞「影響」を修飾する連体修飾節においても、上記の叙実性に関する制約ははたらいっているようである。

一方、主節時基準であれば夕形をとるという意味で「影響」と同じ条件にある「あと」を修飾する連体修飾節には、上記の叙実性に関する制約を受けて許容度が悪くなる、という例を見いだしがたい。

(28) [彼らがあした非難決議を提案した] あと、その影響が、徐々に出てくるだろう。

(29) [あの国が来年牛肉の輸入を再開した] あと、その影響は、どれぐらいになるだろうか。

(30) あの会社は [来年法人税が上がった] あと、その影響をもろに受けるだろう。

上記 (28) (29) (30) は、「影響」を含む (25) (26) (27) に反し、ほぼ自然である。叙実性に関する制約によって許容度が低い文に対応する「あと」を含む文というものが常に存在するわけではないが、すでに見た

(23) ? 太郎は、[来年引退した] ことを、海外の関係者に対してはしばらく隠すだろう。

(24) ? [明日発表を終えた] 山田さんは、あさってバスで帰るそうだ。

に比べて、

(31) 太郎は、[来年引退した] あと、そのことを海外の関係者に対してはしばらく隠すだろう。

(32) 山田さんは [明日発表を終えた] あと、あさってバスで帰るそうだ。

の許容度の高さは明確である。

3-2 ダイクシス時詞に関する制約の有無 (強弱)

従属節の中には、時間関係が問題ないにもかかわらず、従属節内に「きのう」「去年」等のダイクシス時詞を出現させると許容度が下がる場合がある。(33) (34) は内の関係の連体修飾節の例であるが、(33) と (34) が全く同じ時間関係をあらわしている場合 ((34) において発話時が 10 日であるという場合) においても許容度に差があり、(34) に比べダイクシス時詞の出現している (33) の許容度が低い。

(33) ?? [きのう出場する] 選手たちは、おととい神社に必勝祈願に行った。

(34) [9 日に出場する] 選手たちは、8 日に神社に必勝祈願に行った。

これは (35) (36) のような外の関係の連体修飾節でもおおむね同様で、

(35) ? 委員会は [去年日本でワールドカップを行う] ことをその 6 年前に決めた。

(36) 委員会は [2002 年に日本でワールドカップを行う] ことをその 6 年前に決めた。

(35) と (36) が同じ時間関係をあらわす場合 ((36) において発話時が 2003

年であるという場合)においても、(36)より(35)の方が許容度が低い。この種の許容度の低さをここでは「ダイクシス時詞に関する制約」と呼ぶ(この制約の生じる原因は主として従属節テンスの基準時が主節時である一方、(節内の)ダイクシス時詞の基準時が発話時、という、同一節内で異なる基準時を要求する要素が併存するためであると考えられる(橋本 1995 ほか参照)。ただし、すべての主節時基準節において均質的にダイクシス時詞の出現が拒絶されるというわけでもなく、詳細については今後の課題となる)。このダイクシス時詞に関する制約は、主節時基準で、かつ従属節ル形の場合にもっとも強くはたらく(上記(33)(35)の例はその条件に該当する)が、その条件を満たした場合の、「準備」を修飾する連体修飾節においても、同様にこの制約がはたらいている。

(37) ??彼らは [去年全国大会を開催する] 準備を、3年前から行っていた。

(38) 彼らは [1998年に全国大会を開催する] 準備を、1996年から行っていた。

(39) ?我々は [昨日この店を開店する] 準備のため、半年前から頑張ってきた。

(40) 我々は [10月1日にこの店を開店する] 準備のため、半年前から頑張ってきた。

一方、同様の条件下にある場合の「まえ」節には、このダイクシス時詞に関する制約がほとんどはたらかないようである。

(41) 彼らは [去年全国大会を開催する] まえに、地方大会を3年前に行っていた。

(42) 我々は [きのうこの店を開店する] まえに、おととい宣伝のピラを駅前で撒いた。

4. まとめ等

以上、時の従属節というカテゴリーに入れられることの多い「まえ」「あと」節と、いわゆる外の関係の連体修飾節(その中でも相対的補充関係を担うタイプ)として扱われる「影響」「準備」を修飾する節との、共通点・相違点を見た。その結果は、両者が共通点も持つ一方で、「まえ」「あと」節は、「影響」「準備」を修飾する連体節が(概ね連体節が一般的に持つ性質として)受ける、叙実性に関する制

約・ダイクシス時詞に関する制約を受けない、という点で相違することが明らかになった。ひとまず相違点が見いだされたことで、「まえ」節「あと」節が他の相対補充連体修飾節と区別されることの可能性は保持された。ただし、区別されることの正当性がはっきりと確保されるためには、上記の相違点が何に由来するかが、より明確にされなければならない。

はじめに触れたように、時の従属節の定義、特に形態上「連体修飾節＋主名詞（＋助詞）」という形をとっている「まえ」「あと」節が、他の一般の連体修飾節＋主名詞から特別に時の従属節として切り出される根拠が未確定である現況においては、上記のような、それぞれの振る舞いの共通点・相違点を洗い出し、それぞれの現象の意味づけを考えながら分類を再検討していく必要がある。当面は、相対的補充関係を担うタイプの連体修飾節の網羅的な検討、本稿で明らかになった共通点・相違点の背景（特に、相違点のうち、なぜ「まえ」節・「あと」節が上記2種の制約を受けない（受けにくい）のか）の解明が重要になるとと思われる。

注

- * 1 本稿では「「まえ」節」「「あと」節」などという呼称を、連体修飾節（(01)で言えば「太郎に会う」の部分）、連体修飾節＋主名詞（(01)で言えば「太郎に会うまえ」）、連体修飾節＋主名詞＋助詞（(01)で言えば「太郎に会うまえに」）いずれの場合にも用いる。紛らわしい場合には、どれを指すのか示すが、どれを指しても論旨に支障がない場合や、事実上どれを指しているか明白な場合は特に示さない。
- * 2 厳密には主節時基準というよりも、主名詞時基準（丹羽 1996、橋本 1997 参照）というべきであるが、ここではその差が問題にならないので、わかりやすさのため、主節時基準として議論する。
- * 3 厳密には 3-1 内の例文の、許容度が下がる理由がダイクシス時詞によるものでないことをはっきりさせるためにはダイクシス時詞を使わない方がよいが、発話時との前後関係を分かりやすくするためにダイクシス時詞を用いている。詳細は省くが、例文中、慎重に内省判断を行えば、発話時・主節時・従属時の前後関係は同じまま、ダイクシス時詞のある箇所にはダイクティックでない時詞を入れた場合の許容度、ダイクシス時詞をただ削除して、上記時間の前後関係を維持した読みの許容度は、3-1 においてダイクシス時詞を入れてある例文の許容度とほぼ同様であることが分かる。

参考文献

- 有田節子 1996 「日本語の従属文の時制」 九大言語学研究室報告 第 18 号
- 岩崎卓 1998 「連体修飾節のテンスについて」『日本語科学』 3
- 岩崎卓 1999 「マエ節・アト節内のル形・タ形について」『光華日本文学』 7
- 大木一夫 2002 「述定の時間・想定的时间」『国語論究 第 10 集 現代日本語の文法研究』
- 工藤真由美 1995 『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房
- 竹沢幸一 1993 「日本語のトキの副詞節の統語的特性に関する一考察」『個別言語学における文法カテゴリーの一般化に関する理論的研究（平成 4 年度筑波大学学内プロジェクト 研究成果報告書）』
- 寺村秀夫 1975-78 「連体修飾のシンタクスと意味 その 1～その 4」『日本語・日本文化』 4～7 大阪外国語大学留学生別科（寺村秀夫 1992 『寺村秀夫論文集』くろしお出版に 再録）
- 寺村秀夫 1984 『日本語のシンタクスと意味 II』くろしお出版
- 丹羽哲也 1996 「ル形とタ形のアスペクトとテンス 独立節と連体節」『人文研究』 48-10
- 丹羽哲也 2010 「相対補充連体節の構造 —準体節との対応—」『日本語の研究』 6-4
- 橋本修 1995 「相対基準時節の諸タイプ」『国語学』 181
- 橋本修 1997 「マエ・アト節のトキ解釈」『文藝言語研究 言語篇』 33
- 福田嘉一郎 2003 「いわゆる叙想的テンスの出現条件」『日本語文法学会第 4 回大会 発表論文集』日本語文法学会
- 町田健 1989 『日本語の時制とアスペクト』アルク
- 三宅知宏 1995 「日本語の複合名詞句の構造—制限的／非制限的連体修飾をめぐって」『現代日本語研究』 2
- 山森良枝 2009 「時間的バースペクト・シフトと従属節のテンス」『日本認知科学会 第 26 回 大会発表論文集』

[付記]

本稿は筑波大学国語国文学会平成 17 年度大会発表の内容に修正を加えたものである。発表の席上コメント下さった方々に感謝申し上げる。

はしもと おさむ／人文社会科学研究科
(2010年10月30日 受理)